

通し番号	5253
------	------

分類番号	R06-92-31-09
------	--------------

東京湾における神奈川県沿岸域の貝毒原因渦鞭毛藻類の出現状況	
[要約] 2017年からの5年間において、1 cell/mL以上の密度で出現した種は、下痢性貝毒原因プランクトンの <i>Dinophysis acuminata</i> 及び <i>Dinophysis fortii</i> の2種で、麻痺性貝毒原因プランクトンは確認されていない。また、規制値を超える下痢性貝毒及び麻痺性貝毒は検出されていない。 <i>D. acuminata</i> はほぼ周年で、 <i>D. fortii</i> は3～7月に出現し、両種とも特に高密度で出現する時期は主に5～6月である。これら両種の出現傾向は、千葉県海域を含む東京内湾全域の傾向である。	
神奈川県水産技術センター・企画研究部	連絡先 046-882-2312

[背景・ねらい]

マガキの養殖やアサリ、チョウセンハマグリなどの二枚貝類の養殖、採捕が近年盛んに行われている。貝毒の発生は食の安全性を脅かし、二枚貝漁業養殖業にも深刻な経済的損害を与える恐れがあるものの、東京湾海域での貝毒プランクトンの分布や発生状況など基礎的な生態が明らかにされていない。そこで、下痢性および麻痺性貝毒原因種の発生状況を明らかにし、出現傾向や特性を検討する。

[成果の内容・特徴]

- 2017年からの5年間において、下痢性貝毒原因種の*D. acuminata* と*D. fortii* の2種は貝毒発生監視体制を強化する基準密度 (5,000cells/mL) を超える出現は無く、麻痺性貝毒原因種は出現していない。貝毒検査では、規制値を超える下痢性貝毒及び麻痺性貝毒は検出されていない。
- D. acuminata* は季節を問わずほぼ周年に、*D. fortii* は3～7月に出現し、両種とも高密度で出現する時期は主に5～6月である。分布特性として*D. acuminata* は東京湾口部よりも湾奥部側で高密度に出現するが、*D. fortii* は出現細胞密度に明瞭な差は見られない。これら両種の出現傾向は、千葉県海域を含む東京内湾全域の傾向である (図1)。
- D. acuminata* は水深2m層よりも0m層において出現密度が高い傾向がみられたが、*D. fortii* は水深別での出現差は無い。*D. acuminata* と*D. fortii* の高密度出現時水温はそれぞれ17.0～26.9℃と20.8～23.9℃であった。(図2)。

[成果の活用面・留意点]

- 下痢性貝毒原因種2種の出現時期を特定したことで、東京湾産二枚貝類の貝毒検査及びモニタリング重点実施時期の設定など具体的な調査計画が検討可能となる。
- 2020年には相模湾で麻痺性貝毒原因種の*Alexandrium. catenella* (Group I) が、2023年には東京湾で麻痺性貝毒原因種ではないものの、同*Alexandrium* 属の*A. fraterculus* が出現しており、今後の麻痺性貝毒原因種の出現密度の増加と毒化リスクの増大が懸念される。

[具体的データ]

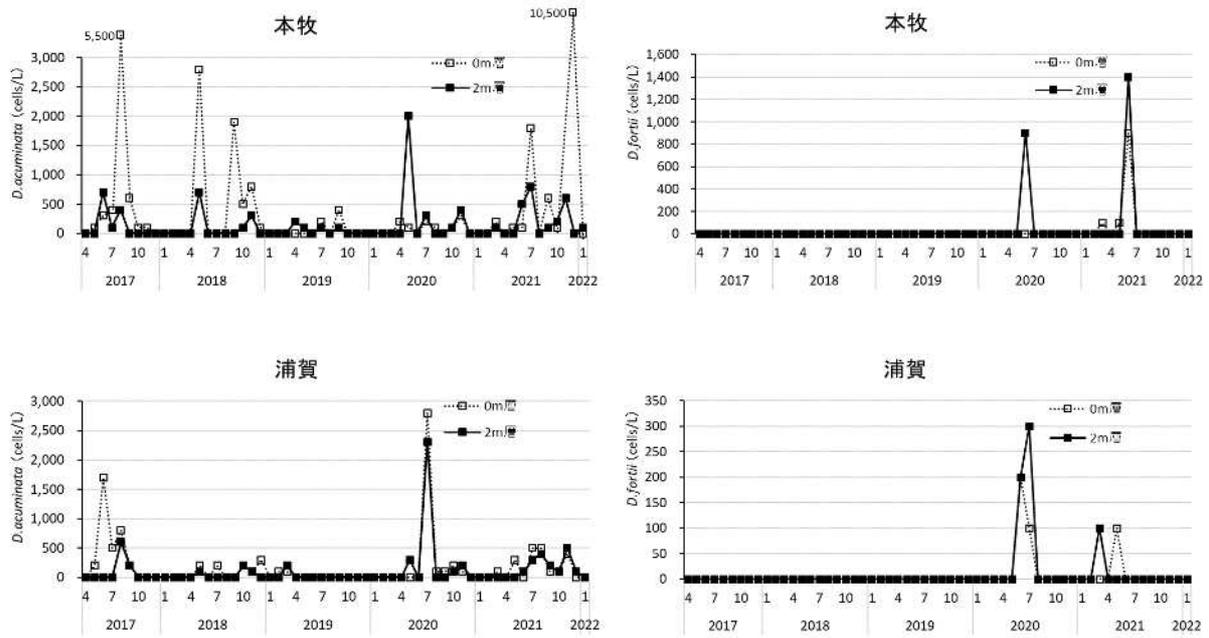


図1 *D. acuminata* 及び*D. fortii* の細胞密度の月別推移

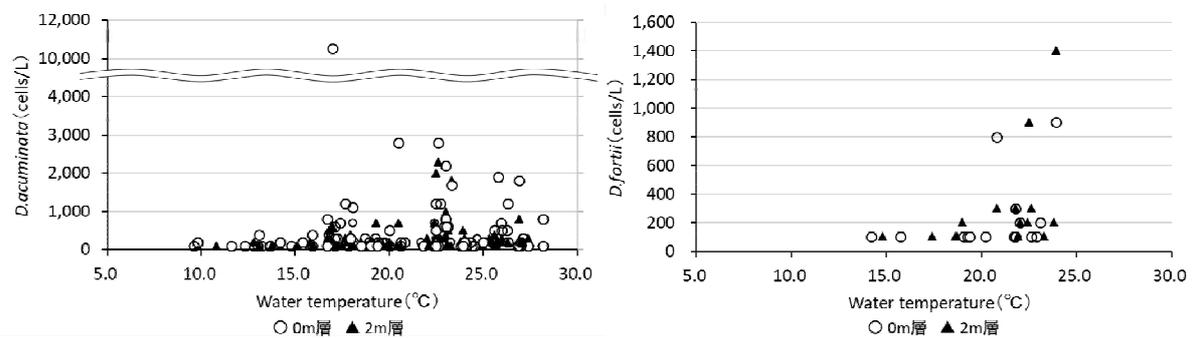


図2 *D. acuminata* 及び*D. fortii* の細胞密度と水温の関係

[資料名] 神奈川県水産技術センター研究報告第12号

[研究課題名] 東京湾における神奈川県沿岸域の貝毒原因渦鞭毛藻類の出現状況

[研究期間] 2017(平成29)年度～2023(令和5)年度

[研究者担当名] 赤田英之

[協力・分担関係] 横浜市漁業協同組合、横須賀市東部漁業協同組合 (検体提供)